

平成28年度 住之江区区政会議

第3回 子ども・教育部会 会議録

○長船政策推進室主幹

それではすいません。部会ということで、7名ってということで、本日7分の4、安田部会長のほう、ちょっとどうしても本日欠席ということと、あと、西尾さん。出席していただけるということで、こちら向かっていただいております。

それとあと、うちで言うたら、藤本委員が本日ちょっと欠席ということで伺っております。

それでは定足7分の4ということで、定足満たしておりますので、始めてまいりたいと思います。

前もって資料のほう、送付さしていただいておりますので、こちら一読いただいておりますかなと思いますので、そちらに沿って、ご説明させていただきます。

まず、教育行政連絡会の報告ということで、今回小学校の部、中学校の部ということで、議事録つけさしていただいております。

まず校長先生方からの意見ということで、小学校の部ですね。小学校の部につきましては、校長先生方の意見といたしまして、「今年度実施した事業は、すべて来年確保していただけるんですか」ということで、それが前提となって、ということで、こちらについては予算、当然シーリングいうの、かかってまいります。3%減ということなんですが、確保してまいりたいということで、こちらのほうは今年度事業は、すべて大体確保していきたいということで、考えさしていただいております。

あと、特に、小学校の先生方なんですが、できたら国際交流イベントじゃないんですけど、国際色出せるようなもの、ちょっとまあ区の特色として、何か考えていただけないかなということで、小学校の先生方からは、そういうふうな意見をいただいております。

次に中学校の先生方からなんですが、中学校の先生方からは特に今回、予算には反映しないんですが非常に多かったのが、公設置の民営学校ということで、南港地区ですね。今候補地としまして、南港渚小学校、南港緑小学校が、平成30年4月に、南港南中学の小中一貫校になります。そこで2つの小学校が、廃校になりまして、その跡地に公設置民営の学校ということで、中高一貫校。新聞でも発表されたと思いますが、大阪市が設置して、運営を民間に任すということで、今進んでおります。

ただ、受託業者ということで、これまあ、年明けぐらいから公募にかかるんですが、手が挙がらなければ、当然ここでの設置ということは、一旦白紙に戻るということで、説明させていただいております。でまあ、中学校の先生方につきましては、特にそちらのほうの問題で議論がありました。特に予算には反映しておりません。ここ教育委員会の事業になっておりますので。

とまあ、中学校の先生方にはICT教育ということで、どんどんどんどんICT教材入ってるんですが、なかなかちょっと使いにくいということで、区としても何か考えてくれへんかということだったんですが、どうも教育委員会確認しますと、2学期から、やっぱり非常に精力的に専門の指導員等々派遣して、2学期から動いていくということで、ちょっと1学期のほうは、確かに動きがおそかったんでいうことで、これ校長先生方には、2学期から動いていくということで、教育委員会のほうの事業で動いていくということで、了承いただいております。

あと、南港のほうでも、できたらまあ、加賀屋地区ということで、今民間の塾やっってるんですけど、南港のほうでもできたらまあ、設置していただけたらどうかなという意見もありました。

以上が中学校の校長先生方の意見ということで、かいつまんで話させていただいております。

その次に、前回の5月の30日に、こちらの場で皆さんから意見いただいた分で、っていうことで、まとめさせていただいておりますが、基本的には部会からの意見と

ということで、引き続き学力向上を目指す施策、ということで、今も施策一定、学力向上に成果あらわれてるんで、できたらこれを引き続いてお願いしたいということで、今回それも引き継いでやっていこうと思っております。

まあどちらかというと、メンタル面のフォローを手厚くしてほしいということで、こちらのほうも今回考えさしていただいておりますんで。

それとあと、テストに直結するような授業のみにとらわれず、授業内容をちょっと考えてみたらどうかということで、こちらのほうもちょっと検討さしていただいた結果、来年度の案ということで、ちょっとめくっていただきまして、来年度案でございますね。④の平成29年度住之江区教育関係施策案ということで、A4の横長の用紙つけさしていただいております。

まず今ある事業、ほとんどそのままってということで、区まち費ということで、夏休み等々の長期休暇の子ども学習サポート事業につきましても、今年度と同様、行っていきたい。で、英検漢検ですね。こちらのほうにつきましても、今年度広げてますんで、これも同様に行っていきたいと。

発達障害サポート事業につきましても、非常にニーズが高いので、各学校からこれもそのまま行っていきたいと。

あと、区CM事業ということなんですが、家児相の1名の増員。それと、スクールカウンセラーの全校配置。こちらについても、今年度同様、行っていきたいということで、考えております。

1枚めくっていただきまして、こちら校長経営戦略予算というところなんですが、ここはちょっと、若干いらってるところありまして、まずちょっと2つ目なんですがね、住之江区の基礎学力アップ需要ということで、加賀屋塾なんですね、実際。で、こちらのほうにつきましては、来年度からは、委員選定費用だけということで、初期投資費が終わってますんで、こちらは委員選定費用するだけで、ずっと来年度も同じように形態で続けられるっていうことになっております。

それとあと、若干今回なくしたんが、辞書引き学習なんです、こちらのほうにつきましては、公費、区役所経費で持ったんは、まあ今回2校なんです、ただ入札落ちがありましてね。校長経営戦略予算で落ちたところ、今年度分ですね。5校ほどすくいにいってます。小学校3年生、全児童の小学校3年生分を、5校にすべて配置いうことで、配付する予定になっております。

あとはもう、校長経営戦略予算で、本来の学校の先生の校長経営戦略予算で、一度検討してくださいということで、こちら返しております。

今年度継続して行うのと、新たな事業ということで、まず南港南中学ですね。小中一貫校設立に向けた特色ある環境づくりということで、こちらのほう、eラーニング教材入れてまして、これ3年の約束で、来年度がちょうど3年の約束なりますんで、こちら継続と、それとあわせて、今回どうしてもやりたいということで、ICT利用したプログラミングの教材を利用して、プログラミング事業いうことを行っていきたい。

これ何かと申しますと、プログラミング教材ということで、ロボットを買って、ようレゴとかロボット出してますよね。そういうロボット買って、そこで子どもたちがそのロボット動かすように、プログラム、いわゆるプログラマーですね。そういうのを打ち込んでいって、そこでまあ、創造性とか高めていくと。こちらについては、4年後に小学校の正式な授業ということで、文部科学省のほうで、4年後の導入を目指してるということで、南港南のほうでちょっと先駆けて、南港南中学入れるんですが、その傘下の渚小学校、緑小学校のほうも、共用で使えるということで、そちらのほうに10台ほどロボットのほう用意して、こちらでプログラミング教育ということで、大阪府で一番、まあまあ先を走るといようなことをやっていきたいなと思って、今回予算化しております。

それと次に、部会の皆様方の意見を受けまして、スクールソーシャルワーカーということで、こちら今のところ週3回、43週。まあ長期休みの春休み冬休みは除きま

すが、週3回の6時間で、43週予定しております。こちら予算的に190万弱なんです、実際国庫補助が3分の1入りますんで、実際の予算は約300万弱なりますが、これが大阪市の短期部分だけ書いております。それでまあ、ちょっと今回、そこからスクールソーシャルワーカー導入して、要対協落ちる前ですね、そこはうまいこと救っていただけらなと思って、今回新たに思っております。

それと門先生からも要望ございました、キャリア教育推進事業ということで、青年海外協力隊ですね。こちらの方をちょっと招いて、できたら海外のお話とか、いろんなお話とかしていただいたり、あと、海外の交流事業ですね。あとまあ、海外と結んで、スカイプですね。例えばトンガとかフィリピンの子と結んで、向こうと直接こう、お話ができるような、そういう事業を展開して行って、子どもたちに夢を与えていきたいなと思って、その夢が、キャリア教育の一助にでもなったらなということで、今回、そういうふうな要請さしていただいています。

以上が来年度に向けた予算案ということになっております。

あと、こちら補足資料ということで、プログラミング教育のあり方いうのと、あとプログラミング教育の機材のロボットですね。それとあとスクールソーシャルワーカーの活用事業ということで、こちらまあ、国が出してるフロー図みたいなのをつけております。それとあと、キャリア教育推進事業等で、国際理解教育の推進事業等で、此花区が先駆けてやっておりますんで、こちらのほう、ホームページから抜き出してつけておりますので、一読していただけたらありがたいです。

以上、説明のほう、終わらしていただきますが、ご意見、質問等々ございましたら、どうぞよろしくお願いたします。

○門委員

質問っていつて変なんですけども、南港南中学校の校区で、小中一貫校になるけども、それはもう決まっていることで、どうっていう、中身はともかくとして、まあ決まっていることで、それはそれで難しいのが、4校目になるのかな。小中一貫校として。

○長船政策推進室主幹

4校目です、はい。

○門委員

4校目でやりはるってということなんで、あれなんですけども、この間そこにほら、すごく区としても、力入れるいうのか、まあ何か魅力あるっていうのか、意見はともかくとして、いろいろやってきはって、さらにそこにね、それをしはるっていうことは、気持ちはわからんでもないねんけど、まあ小中一貫校大阪市がつくるのに対して、そんだけ区がいっぱい、いろいろせなあかんのかなっていうあたりが、やや疑問というのか、うん。

○長船政策推進室主幹

まあ、南港自体が、咲洲ウェルネスタウン計画ということで、人口回復目指してまして、その一つの大きな柱が、特色ある教育ということで、そこに区のほうも乗っかっていくと。それとこれ、あとあれですね。校長経営戦略予算で、来年度、手挙げていくっていう学校が、何校かあるんです。今回も、南港実は南港渚、南港緑、自分とこで手挙げていきたいってということで、相談があったんです。で、よその学校さんも、恐らく考えてたら、ちょっと手挙げていきはるのかなあと思うんですけど。ここでまず先陣切って、こういうこういう行区ですってということで、ちょっとできたらこれを住之江区中に広げたらなとは思ってるんです。

でまあ、次年度ではありますが、当然手挙げていただけるんやったら、うちのほうも、何ぼかやっぱり、予算も措置していけたらなあと思ってるんです。

ただなかなかね、扱う先生が、かなり技術の先生が突出した先生じゃないと、なかなか難しい面もあるみたいなんで、ちょっとまあ、たまたま南港南中学の教頭先生が技術の先生で、こういうのが非常に得意やったんで、それでまあ手挙げていただいたってということもあるんです。

○門委員

これはプラスアルファとして、区が出してはるってということなんですね。

○長船政策推進室主幹

そうです。そうです。ここはプラスアルファです。まあ、区いうよりも、教育委員会のお金ですけどね。校長経営戦略予算の区長枠ということで。だからよその学校が同じように手挙げたら、当然教育委員会が査定しますんで、ひょっとしたらそこもつく可能性もあります。

○門委員

それプラスこれも上乗せする。

○長船政策推進室主幹

まあ上乗せでってことで。はい。

○門委員

あれあんまり当たってませんよね。金額。ピンきりですごく。

○長船政策推進室主幹

まあ大体3分の1、4分の1ですね。

○門委員

全く手挙げはらへん学校もあるし。

○長船政策推進室主幹

まあそうですね。

○門委員

何かちょっとそれって、まあいいです。

○長船政策推進室主幹

あと、何かございませんでしょうか。

○門委員

あとこの、加賀屋塾は、もう30名満ぱんになってるんですかね。

○長船政策推進室主幹

今のところね、大体25名なんですけど、ただね、やはり塾代のバウチャーですね。が、やっぱり知らなかった子が結構いてまして、実際始まったん8月1日なんですけど、バウチャー使えますよってということで、まあ7月から募集したんですけど、バウチャー申請して、最短であれ、9月やったんかな。

○事務局

10月です。

○長船政策推進室主幹

最短で10月にしか出ないんですよ。だから、10月のバウチャー出るまでちょっと待っときますという生徒さんも、何名かおるということで。やっぱりもうちょっとこう、塾代のバウチャーも浸透してたら、すぐにこう、待遇で行けたんですけど、ちょっとそのバウチャーが手に入るのが、10月1日からですと。だから、10月から入りますっていうのが、何名かいらっしゃいます。今は大体、定員30で25名になってます。

ちなみに結構、加賀屋だけか思ってたしたら、真住、新北、住一からも来ていただいております。

○門委員

ほんでもバウチャーは、就援の該当者。

○長船政策推進室主幹

いや、今所得制限がかなり緩和されまして、今、大体大阪市で6割、大阪市で5割、住之江区やったら大体6割ぐらいの方が、申し込めば該当するということになってます。

○門委員

就援以外でも。

○長船政策推進室主幹

はい。ことしからかなり緩和されました。所得のほうが。はい。

○門委員

ちなみに幾らぐらい。

○長船政策推進室主幹

大体、何ぼやったかな。600万ぐらいやったかな。

○事務局

そうですね。すみません。私も。

○長船政策推進室主幹

給与収入で600万ぐらいやったと思うんです。そやからまあ、所得で引きますんで、だからまあ600万ぐらいの世帯でっていうことで。

○門委員

でももらえるという。

○長船政策推進室主幹

もらえます、もらえます。

○長船政策推進室主幹

かなり緩和されてます。ちょっとごめんなさい。数字のほうは、500万かもわかりませんが。

○門委員

かなりどころじゃないと。

○長船政策推進室主幹

かなり緩和されてます。

○門委員

就援がもう全然ひっかからないから。300万前後でも切られてしまっているから今。

○長船政策推進室主幹

あと、何でもよろしいんで、どうですか。これわからんとかいうところ、ありましたら。

はい。

○伊達委員

あほな意見なんですけど、この学力は、前もちょっと言ったことあると思うんですけど、教育に関しては、すごい十分なぐらいフォローしていただいていると思うので全然。ちゃんと見直しはちょっとしたほうがいいのかなって思うのも、ちょっとはあるんですけど。学面ではないお子さんの精神面の教育っていうんですかね。道徳であるとか、家庭環境であるとか。ちょっと私は子ども食堂をやっているっていうのもあるんですけど、すごいお子さんたちが毎日学校に行けてるんですけど、かなりちょっと貧困状態にあるっていうか。それ絶対的貧困ではないんですけど、そういう相対的な貧困に対しての、何か取組っていうのは、区っていうのは何か、予算的には、住之区。

○長船政策推進室主幹

独自で。

○伊達委員

はい。

○長船政策推進室主幹

いわゆる一種のね、言うたらあれですけど、一種の子ども学習サポートなんかでも、一種の貧困対策じゃないんですけど、言うてみたら春休み夏休み、補習授業やりますよやから、どんどん来てください。家でしんどかったらここで見ますとか、あと、まあいわゆる大阪市的にやっているんですけど、加賀屋塾ですね。言うてみたら、非常に安価な値段で、今トライさんとってくれてるんですけどね、やっぱ非常に高いんですね。トライさん、実際行ってみたら。非常に安価な値段で、1万円で、言うてみたら月マックスやったら8回なり9回なり、8時間9時間いけますし。そういうところで、これが一種の、かなと思ってるんです。

ただ、貧困調査、今やってましてね、まだ単純集計しかおりにきてないんですね。その集計で、ちょっとこれから今後、貧困対策の取組、区独自でも考えていかなあか

んいうことで、ちょっとこれからは考えていこうとは思っております、それは。

○伊達委員

ちょうどね、子どもらの、市長さんが調査された数字が出てたと思うんですけど。

○長船政策推進室主幹

まだ単純集計なんですわ。グロス集計が出てないんですね。それがグロス集計出るのが、来年度なんですわ。

○伊達委員

来年。

○長船政策推進室主幹

というか、来年なんです。だから、2月3月やから、ちょっと今どう、正直言うて、もう予算要求この時期なんでね。だから今、言うてみたら、この子ども学習サポートとか、そういうところが、この加賀屋塾ですね。そういうところが貧困対策の一つの受け皿なんかと思ってるんですけどね。

○門委員

伊達さんの趣旨はちょっと違うよね。いわゆる勉強に限らず、っていう意味で。もっと文化的なとかね。全然前も、前期のあれとかで、何か例えば、せっかく子どもにもっと文化的な、いろんな経験をさせてもらったほうがありがたいとか、まあ地域にある人形劇団とかあんなをもっと安くね、みんなに見せてやるとか、そういう情緒面っていうのか、そういうふうなんに、もっとお金を使ってほしいって。

だから結局、どうしても学力に集中していうのと、まあ南港にこういう学校つくるからっていうことで、まあ要は全部勉強勉強って、普通の言葉で言えばね。そういうなんやから、何かもうちょっとそういう、だからそういう意味では、このソーシャルワーカーとかスクールカウンセラーとかね。そういうようなんは、すごくいいんやけど、そこまでも届かないとこってね、もっと広く。

○長船政策推進室主幹

ちょっと一つが、さっき前言うたように、このキャリア教育推進事業なんかは、まあ言うてみたら、海外の経験者呼んできて、そこで海外とのこういう、実体験語っていただいたり、それと海外の人呼んできて、例えば海外民族音楽とかで、みんなで触れ合うとか、先ほど申し上げたようにリアルタイムで、現地とスカイプで結んで、だから子どもたちある意味、夢を与えられるのかなとは思うんですけどね。

○伊達委員

すごい、これはいい取組やとは思うんですけど、まあ海外よりも、何かもっと地域の方と触れ合える、何かね。地域の皆さんの中でこう、子育てしましょうっていうふうに言ってますけど、なかなか地域とかかわることなんて、子どもたち今は、あんまりないと思うので。何かね、知らないおっちゃん見たら逃げなさいっていうのが、標語になってる時代やから。

○伊達委員

全然地域の方と、何かもう少しかかわりあえるような学習が、そういった学習ですね、言うたら。

○長船政策推進室主幹

まあ地域地域でね、やっていただいている地域は非常に、厚くやっていますし。

○伊達委員

それって地域単位ですか。お任せになっちゃうと思うので。

○長船政策推進室主幹

そうなんですよね、やっぱり。なかなか区としてね。

○西山委員

結構地域単位では、清江なんかは結構やってるほうなんです。

○長船政策推進室主幹

そうなんですか。そやから、地域と学校となんですすね、やっぱりどうしても。

○門委員

そうやったら一体、学年でね、年寄りと遊ぼうとか、何かそういうなんは、どこの学校もやってるとは思うんですけども、そういう何か決まった枠とかじゃなくて、もっと広い・・・と、軽い意味でって言ったらおかしいけど、ねえ。何かいろいろ。

○長船政策推進室主幹

どっちかいうと、ほんなら子育て支援室のようなイメージの。

○伊達委員

そうです、そうです。

○門委員

そう。そうです。

○長船政策推進室主幹

どっちか言うともね。僕らみたいに教育ばかりじゃなくって、どっちか言うとも子育てというような切り口なんですね。

○伊達委員

そうですね。何かこう、お子さんの評価も、数字で評価するのもいいと思うんですけども、ばかりじゃない分野っていうのが、今結構スカスカだと思うので。その辺ちよっとどうにかならへんのかなって。

○長船政策推進室主幹

まあ今日いただいた意見、ちょっとまた、子育て支援室のほうにお伝えして、そこはやっぱ話もしますし。来てんのかな。

○伊達委員

それって小学校、中学生とかも対象なんですか。

○長船政策推進室主幹

まあどっちかいうと。

○伊達委員

もうちょっと小っちゃい幼児ですよ。

○長船政策推進室主幹

小っちゃい子やけど、ただ家児相とか、ああいうのは、子育て支援室の範疇になってますから。

○伊達委員

そうなんですか。

○長船政策推進室主幹

そうなんですわ。だから、どっちかって言うと線引きってというのは、なかなかないんですけどね。だから学校でやっぱり何か困ったことあったら、教育違って、そういう面は、全部子育て支援の、家児相の職員さんとか、そういうのにつないでいくということになるんですけどねえ。

ちょっと一旦、家児相のほうに、っていうか、子育て支援室のほうに、一旦こういう意見出てるということで、次回また子育て支援室のほう、ちょっと同席させますわ。

○伊達委員

あ、はい。お願いします。ありがとうございます。

○長船政策推進室主幹

よろしゅうございますか。

○門委員

それとね、例のバカロレアのやつは、手が挙げられなかったら中止になるんですか。

○長船政策推進室主幹

あのごめんなさい。国際バカロレアの認定は、候補地ですね、あくまでも。あそこ南港が。じゃあ候補地やけど、だれも手挙げられへんかったら、当然できませんよね。

○門委員

ああ、もちろん。

○長船政策推進室主幹

業者いてませんから。そこで再募集かけるか、よその候補地いけるかっていうのは、

それはもう教育委員会の範疇です。我々も、今回教育委員会主導型ですから。たまたま、南港選んでいただいたってということで、我々も全面的に南港にきていただきたいんで、バックアップはしてますし。ただ、あくまでも手挙げていただけるんは、業者さんですんで、まあ受託業者とか学校法人さんですんで。学校法人さんが当然手挙がれへんかったら、じゃあここはあかんのかなと。であかんかったら、もう一遍、再検討して、何が足らんかったということで、もう一遍南港出すか、それとも別の場所出すかというのは、これもう教育委員会さんになってきますので。

○門委員

ほんなら今回が小中一貫校と同じ、もう背中合わせで、また中高一貫校で、中中学校が2つきて、どないなるんですかって思うけど。

○長船政策推進室主幹

ちょっとやっぱり、ねらいが違うんですけどね。やっぱりその、中高一貫の場合は、やはり子どもが入るとき、選抜試験ありますんで。でまあ、そこでやってるほうで、中学一緒に行っていて、そこで見て広げていただけたらとか思ってますし。ちょっとまあ。

○門委員

けど、ほんまに同じ校区に、2つ中学が、違う中学校が、一つはまあ言うたらかなり、言うてるような学校ができて、こっち側は普通の学校ができて、っていう。

○長船政策推進室主幹

ちなみに、咲くやこの花なんて、此花区民は行ってんのは、ごくごく数%です。あとはよそから全部来てはります。

○門委員

いやいや、そういう意味じゃなくって、それがなんで中学校が、こんなしてくっついてできるんかというあたりが、ちょっと意味がようわからん。

○長船政策推進室主幹

ぼちぼち、はい、すいません。そしたら。

そしたらすいません、ちょっと今日、まとめ発表せなあきませんので、前もって安田部会長、今日欠席ということなんで、前回ちょっとお願いした伊達さんのほうで、お願いしようと思ってますんで、一つまたよろしくお願いいたします。

すいません。どうもありがとうございました。